

「神の国を下さる」

ルカによる福音書 12章

22 それから、イエスは弟子たちに言われた。「だから、言うておく。命のことで何を食べようか、体のことで何を着ようかと思ひ悩むな。

23 命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切だ。

24 鳥のことを考えてみなさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、納屋も倉も持たない。だが、神は鳥を養ってくださる。あなたがたは、鳥よりもどれほど価値があることか。

25 あなたがたのうちのだれが、思ひ悩んだからといって、寿命をわずかでも延ばすことができようか。

26 こんなごく小さな事さえできないのに、なぜ、ほかの事まで思ひ悩むのか。

27 野原の花がどのように育つかを考えてみなさい。働きもせず紡ぎもしない。しかし、言うておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。

28 今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたにはなおさらのことである。信仰の薄い者たちよ。

29 あなたがたも、何を食べようか、何を飲もうかと考えてはならない。また、思ひ悩むな。

30 それはみな、世の異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの父は、これらのもの

のがあなたがたに必要なことをご存じである。

31 ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものは加えて与えられる。

32 小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。

33 自分の持ち物を売り払って施しなさい。擦り切れることのない財布を作り、尽きることのない富を天に積みなさい。そこは、盗人も近寄らず、虫も食い荒らさない。

34 あなたがたの富のあるところに、あなたがたの心もあるのだ。」

* * * *

前回のメッセージの中で「神の前に富む」という表現が出てきました

その答えやヒントがここに書かれています。

* 思ひ悩むな

私たちはいつの間にか過去の出来事や将来の出来事について「思ひ煩う」ことが多くあります。もう過ぎてしまつて決して戻つてこない出来事や、まだ

起つていない出来事について必要以上に思ひ悩んでしまうことがあり

頭の中でいつもそのことで時間をいっぱい使つてしまうことがあるのです。

イエス様は「思ひ悩むな」と語りました。

そして、からずを見て考えるように、野の草花を見て考えるようにと勧めました。

神様が彼らを育て養い、きれいに飾つてくださっている力と配慮を考え、感じ

その力と配慮が私たちに向けられていることをしっかりと感じ取るようにという

勧めです。

私たちは見ているようで、実はしっかり見ていない、凝視したり、観察したりしないので画像が頭の中を通過するばかりになっていることはありませんか。

美しい花、木々の紅葉、あるいは美しい羽をもつ鳥たちが周辺にあるのに、周辺にいるのに、それに気づかないほど、過去と将来のことにあたまをいっぱいにしていないでしょうか。

今朝は youtube の動画では鳥たちやお花の映像を流します。

ゆっくり観察して考えていただけたらと思います。

* 神の国をくださる

イエス様は私たちに考えることを促した上で、神さまは

私たちに「神の国をくださる」ことを断言なさいました。

神の国というのは「神の支配」という意味があります。

神様があなたの状況全てを取り仕切ってくださいっているという

確信、それが神の国です。

パウロの描写による「神の国」はローマの信徒への手紙 14 章にあります。

17 神の国は、飲み食いではなく、聖霊によって与えられる義と平和と喜びなのです。

聖霊によって与えられる、つまり、神様の働きによってもたらされる

「義と平和と喜び」とあります。「救いと平安と喜び」と考えることができるでしょう。

個人にも教会にもそれらは与えられるのです。求めさえしたら。

* 分かち合い

そしてそのことを明確に味わうための方法のひとつとして分かち合いが提唱されています。神の国の祝福は、分かち合う時倍加し、さらに明確になってきます。

そうでなくても、愛している人と喜びを分かち合えたら、喜びは倍になり

悲しみを分かち合えたら悲しみは半分になると言われます。

あなたのほうから「これをどうぞ」という思いで祝福を分かち合えたら良いです。

その際、報いや返礼を求めず、純粋に善意でそれができたらいいですね。

それはあなたの挨拶かもしれないし、笑顔かもしれないし、品物や

交流のための手段かもしれません。いずれにしても分かち合いは

私たちが「神の国の祝福を味わう時の重大な資源」となります。

祝福がありますように。

++++

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/peNN4Ek9b3k>